

世界遺産・奄美群島固有の 生態系と文化的多様性 ～次代へつなぐアマミの宝～

令和6年
(2024年)**10月9日(水) 14:00～16:10****参加費
無料**

奄美群島は、奄美大島と徳之島が2021年7月に世界自然遺産登録されたことが示すように、国内最大規模を誇る亜熱帯多雨林、広大なマングローブ林、河口部に広がる干潟など、多様な環境に多くの固有種が生息・生育しています。また、そのような豊かな自然に根ざした暮らしや風土から育まれてきた固有の文化も存在しています。

しかしながら、地球温暖化による急速な自然環境の変化や世界遺産登録後のオーバーツーリズムに伴う動植物の持ち出しなどにより奄美群島の多様な生態系への影響が懸念されています。また、急速に進む少子高齢化や過疎化によって奄美固有の言語や音の文化が失われつつあります。

本講演会では、奄美群島を中心に、植物や動物の多様性、奄美固有の言語や音の文化に関する最前線の研究を紹介し、奄美群島の自然と文化を取り巻く様々な課題を共有するとともに、持続可能な社会を構築していくための示唆を得る機会とします。

PROGRAM

開会挨拶 14:00～14:10

日比谷 潤子 (日本学術会議 副会長)
佐野 輝 (国立大学法人鹿児島大学 学長)

講演① 14:10～14:35

「奄美群島の植物多様性の解明に向けて」

田金 秀一郎 (鹿児島大学総合研究博物館 准教授)

講演② 14:35～15:00

「奄美の自然を守る：世界自然遺産地域における 哺乳類モニタリングと保全上の課題」

藤田 志歩 (鹿児島大学共通教育センター 教授)

講演③ 15:10～15:35

「奄美群島の豊かな言語多様性とその消滅危機」

坂井 美日 (鹿児島大学共通教育センター 准教授)

講演④ 15:35～16:00

「消えゆく言語のうた ～ 創造的発想による 島唄継承の未来への試み (喜界島、奄美大島での事例)」

原田 敬子 (作曲家、東京音楽大学作曲科 教授)

閉会挨拶 16:00～16:10

内田 誠一 (日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院システム情報科学研究院 教授)
司会進行/郡山 千早 (日本学術会議連携会員、鹿児島大学 副学長・医歯学総合研究科 教授)

場所

鹿児島大学 稲盛会館
キミ&ケサメモリアルホール
(鹿児島県鹿児島市郡元1丁目 21～24)

**参加申し込みはこちら→****【締切日】 令和6年10月2日(水) 17:00**

(対面・オンライン参加共通)
<https://x.gd/SCJ2024Amami>

